

奇形発生の謎探る カナダ人女性ニホンザル調査

2004/08/24



ニホンザル調査に取り組むサラさん＝淡路島モンキーセンター

洲本市畑田組の「淡路島モンキーセンター」に、カナダ人女性がニホンザル研究のため約一カ月間滞在した。手足が不自由な奇形ザルがなぜ生まれるのか。毎日朝から夕方まで観察した。来年は一年間の長期調査を予定。「結果を環境保護に生かせれば」と話していた。

カルガリー大学大学院で人類学を専攻するサラ・ターナーさ

ん(29)。母親は大学教授で、かつて、同センターを訪れた。サラさんは五年前に初めて来訪し、今回が三度目。「北アメリカには天然のサルがいない。人間に進化した動物で、知性が感じられるところに幼いころから興味を持っていた」

同センターの奇形ザルについて、国内の研究者らがこれまで、農薬などによる環境汚染の影響を指摘してきた。

サラさんは、性別や年齢層別に奇形ザルが多い層を調べた。サルは約百六十匹。常に群の端にいるサルもあり、顔を覚えるのも一苦労だった。同センターの延原利和所長らのアドバイスも参考にしながら進めた。今月二十一日に終わり、帰国した。来年は遺伝学的な側面からも調べるといふ。

(高田康夫)

[[閉じる](#)]

Copyright(C) The Kobe Shimbun All Rights Reserved